



Case 12

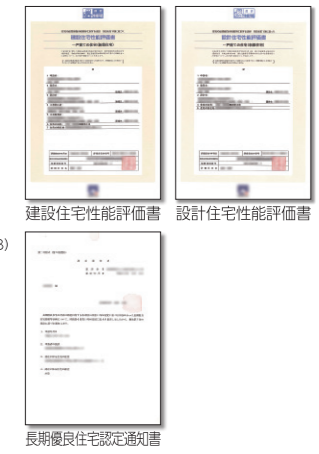
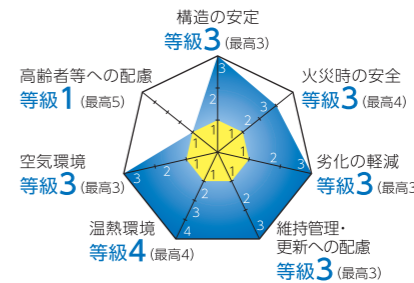
長く価値を保てる家

戸建住宅／高知県／K様邸
家族構成：夫婦+子供2人+祖父母

Interview

家を建てるなら「長期優良住宅」に。結婚を機に祖父母と同居することになり、古い家を建て替えました。住宅性能

住宅性能評価レーダーチャート



光・視環境(単純開口率): 26%以上
防犯(1階 住戸の出入口): その他

の会社に勤務している私は「長期優良住宅」について知っていたので、家を建てる時は制度活用して資産価値を保てる家にしたと考えていました。「住宅性能評価」の項目では、耐震性・耐風性や、省エネルギー対策を重視しました。新築して1年経ちますが、光熱費のランニングコストを気にすることなく、四季を通して快適で安心して過ごせる家を実現できたとても満足しています。「住宅性能

「長期優良住宅」の認定基準のうち、大部分の項目が登録住宅性能評価機関による事前審査が可能のため「住宅性能評価」を併願すると合理的です。また、「住宅性能評価」では4回以上の現場検査があり、併願した場合「住宅かし保険」の現場検査が合理化され費用が軽減されます。

ポイント

「長期優良住宅」の認定基準のうち、大部分の項目が登録住宅性能評価機関による事前審査が可能のため「住宅性能評価」を併願すると合理的です。また、「住宅性能評価」では4回以上の現場検査があり、併願した場合「住宅かし保険」の現場検査が合理化され費用が軽減されます。



Case 13

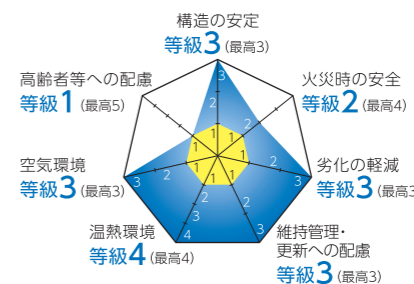
エコにこだわった家

戸建住宅／福岡県／S様邸
家族構成：夫婦

Interview

「住宅性能評価」は、住まいの通信簿です。子供が独立し、国内外での転勤生活も落ち着いたことが

住宅性能評価レーダーチャート



光・視環境(単純開口率): 23%以上
防犯(1階 住戸の出入口): その他

ら、夫婦で理想の家づくりに取り組みました。「エコ」をテーマに、自然エネルギーの活用と木造無垢にこだわる私たちの希望をかなえてくれる施工会社ということでE社に施工をお願いしました。E社は、住宅性能表示制度にも積極的にとりこんでいる会社。この制度は、第三者機関に住宅の性能を評価してもらう通信簿であり、安心を得るための保険だと思っています。家の資産価値を保ち続けるため

「住宅性能表示制度」では、住まいの性能を等級や数値で分かりやすく見える化しています。どのような家に住みたいかという希望と評価書に記された住まいの性能や特徴を照らし合わせ、理想の住まいとのマッチングが図れます。

ポイント

「住宅性能表示制度」では、住まいの性能を等級や数値で分かりやすく見える化しています。どのような家に住みたいかという希望と評価書に記された住まいの性能や特徴を照らし合わせ、理想の住まいとのマッチングが図れます。



Case 14

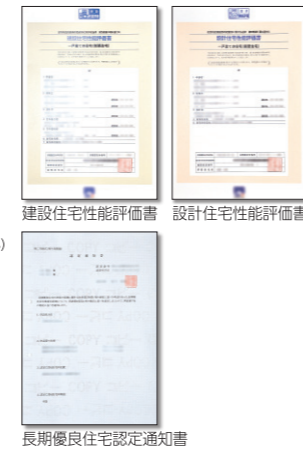
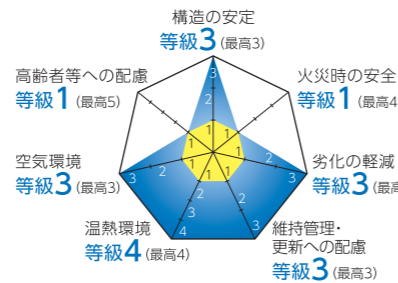
暖かで地震に強い家

戸建住宅／静岡県／Y様邸
家族構成：夫婦+子供1人

Interview

こだわったのは、地震に強い、木の家を建てる事。「建てるなら木の家」と思い、土地を探していたところ

住宅性能評価レーダーチャート



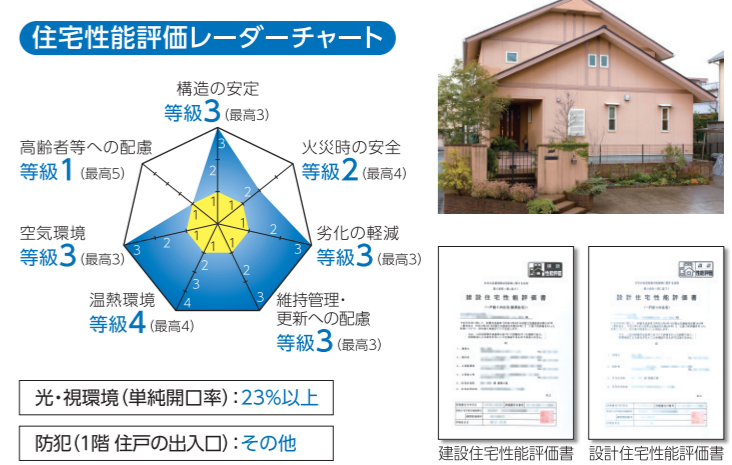
光・視環境(単純開口率): 37%以上
防犯(1階 住戸の出入口): その他

に東日本大震災が起きました。初めての家だし地震が不安だし、という時に、木の家で構造性能にこだわった家づくりをしているA社を知り、今回建築をお願いすることにしました。A社では「長期優良住宅」と「住宅性能評価」は標準仕様となっていました。「住宅性能評価」の項目の中で「住宅性能評価」の項目の中で一番重視したのは耐震性で、最高の等級3を、省エネルギー対策の等級も最高の等級4を取得。この冬の

「住宅性能表示制度」の「温熱環境」の項目に省エネルギー対策があります。省エネルギー対策の等級4とは、次世代省エネルギー基準に対応しており、等級3に比べて13%から48%の省エネが見込まれています。

ポイント

「住宅性能表示制度」の「温熱環境」の項目に省エネルギー対策があります。省エネルギー対策の等級4とは、次世代省エネルギー基準に対応しており、等級3に比べて13%から48%の省エネが見込まれています。



Case 15

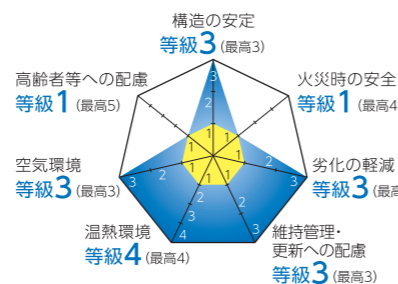
性能と設計を重視した家

戸建住宅／長野県／N様邸
家族構成：夫婦+子供3人

Interview

第三者機関の評価書が手元に残る安心感。子供が増えて、自分たちの家が必要だなと思ひ、家を建て

住宅性能評価レーダーチャート



光・視環境(単純開口率): 25%以上
防犯(1階 住戸の出入口): その他

ることになりました。私は建築士ですので、住宅の品質について客観的な評価を得るためにも、家を建てる時は「住宅性能評価」を取得し、「長期優良住宅」の認定を受けようと考えていました。第三者機関である登録住宅性能評価機関が行う「住宅性能評価」や「長期優良住宅」認定のための技術的審査があるのは、作り手にも住み手にも、とても安心ですね。これから家を建てる人には、これらの

「住宅性能表示制度」と「長期優良住宅」を、標準で装備している住宅も増えてつあります。今後の資産価値を考えれば、「住宅性能評価」と「長期優良住宅」いずれも取得していた方が有利といえます。

ポイント

「住宅性能表示制度」と「長期優良住宅」を、標準で装備している住宅も増えてつあります。今後の資産価値を考えれば、「住宅性能評価」と「長期優良住宅」いずれも取得していた方が有利といえます。